

節目

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文



これよりは恋や事業や水温む

〈高浜虚子〉

未だ寒き中にも、梅が咲き大地の息吹が感じられる雛祭りの前日、愛知淑徳高等学校の卒業式が挙行されました。

十二才から十八才という、心と体が最も成長する六年間にわたる思い出が沁み渡る青の制服とお別れし、それぞれの夢を抱き淑徳生が巣立っていききました。

これからは、句のごとく、勉学にいそしみ、ときめいたり、わくわくする体験を重ね、成長していけることしましょう。

春来たれば路傍の石にも光あり

〈高浜虚子〉

春光まぶしい四月、愛知淑徳大学の入学式が挙行されました。大学は、これまで園児・児童・生徒と成長を重ねてきた新入生が、学生として最後の学校生活を送る場です。

きらりとした澗刺颯たる大学時代を過ぎ、四年後、凜として社会に旅立っていかれることを願っていました。

*

卒業・入学は、人生の大きな節目ですが、節目というと真っ直ぐに伸びていく竹が思い浮かびます。が、竹が少ない西洋では、どのように表現されるのでしょうか。

節目を和英辞典でひくと、ターニングポイントと出てきます。しかしこの二つはニュアンスが違うように思われます。

ターニングポイントは線上の分岐点のイメージですが、節目には年ごとに成長していくイメージがあるからです。

『フィールドオブドリームズ』というアメリカ映画に「夢が叶うまで、あとこれだけ。だが夢は肩をかすめ、歩み去った。人生の節目となる瞬間は自分では分からない」というセリフが字幕にでてきます。ここでは「the most significant moments(最も大切な瞬間)」が節目と訳されているのです。複数の単語で

表現される内容が一語で表現できる日本語の奥深さを感じます。

ちなみに、映画でこのセリフを言う人物は、大リーグでわずかに一試合一イニング守備にいただけで、野球選手としての夢は終わります。が、その後医者として地域に信頼され感謝される人生を送ります。

*

人生には様々な節目が訪れます。卒業・入学という皆が寿ぐ節目だけでなく、悲しくてつらい節目もあります。

竹は節目があるから、強い風が吹いていても、倒れることなく天に向かってすくすくと成長していきます。

悲喜こもごもの節目を重ね、願わくば竹のようになやかな人生を送りたいものです。

